

徳島大学教育GP「高齢社会を担う地域育成型歯学教育」 授業アンケートから考察される教育効果

藪内さつき¹⁾，中江弘美²⁾，日野出大輔²⁾，竹内祐子¹⁾，伊賀弘起³⁾，中野雅徳⁴⁾，
吉田秀夫⁵⁾，羽田 勝¹⁾，尾崎和美⁶⁾，吉岡昌美³⁾，吉田賀弥⁵⁾，中道敦子⁴⁾，
星野由美²⁾，藤原奈津美⁶⁾，河野文昭⁷⁾，吉本勝彦⁸⁾

徳島大学大学院 HBS 研究部 口腔保健福祉学分野¹⁾，口腔保健衛生学分野²⁾，口
腔保健教育学分野³⁾，口腔機能福祉学分野⁴⁾，口腔保健基礎学分野⁵⁾，口腔保健
支援学分野⁶⁾，総合診療歯科学分野⁷⁾，分子薬理学分野⁸⁾

1. はじめに

本研究の対象となる取り組みは、平成19年度より徳島大学パイロット事業支援プログラム「歯科医療系学生の口腔保健・福祉体験実習による健康長寿支援」として開始し、平成20年度からは徳島大学歯学部教育GP「高齢社会を担う地域育成型歯学教育」として採択されたもので、「人間力の向上」「医療人としての自覚を持つ」ことを一般目標とし、学内演習授業における気づきを、学外体験学習での地域高齢者との交流に繋げ、地域に根ざす口腔保健・高齢者福祉の重要性を体得する地域育成型（地域を育て地域に育てられる）歯学教育を展開するというものである。今回、この授業を入学直後から2年次前期にかけて体験した口腔保健学科4年生を対象に、5つのプログラムのアンケート調査および学生への聞き取り調査を行い、その教育効果について考察したので報告する。

2. 対象および方法

図1に取り組みのプログラム構成を示す。1年前期の学内授業は、人間関係における基本的なマナーの再確認や自己覚知、コミュニケーション等を学ぶ機会とし、後期以降の学外授業に向けた準備段階として位置付け構成している。1年後期からの高齢者交流学習においては、高齢者施設を定期的に訪問し、学生が高齢者との1対1の交流を行うことにより、その過程から見えてくる相手の人生や価値観を理解していくことを目的とした。2

年前期には、高齢者福祉施設等において、お口の健康長寿教室を実施し、主に医療人としての自覚を持つことを目指した取り組みを行っている。



図1 取り組みのプログラム構成

以上の5つのプログラムを体験し、かつ学士課程の歯科系及び福祉系の講義と、臨床・臨地実習をほぼ終えた歯学部口腔保健学科4年生15名を対象にアンケート調査を行った。学生に配布したアンケート内容を図2に示す。

教育GPプログラムアンケート
★本プロジェクトの目的以外には使用しません。(成績の評価には影響しません)

1. 現在までに行った教育GPプログラムについてお伺いします。
あてはまるものに○を入れてください。

	良かった	どちらかといえば良かった	どちらかといえば良くなかった	良くなかった
食と健康学習				
気づきの体験学習 (1円玉・駅伝ランナーなど)				
相互歯磨き学習				
高齢者交流学習 (白身魚)				
お口の健康長寿教室 (三成会キョウセンター)				

2. 現在までに行った教育GPプログラムはどんな時に活かされましたか？
あてはまるものに○を入れてください(複数選択可)

	歯科系講義	福祉系講義	歯科系実習(学内)	歯科系実習(学外)	福祉系実習	特になし
食と健康学習						
気づきの体験学習						
相互歯磨き学習						
高齢者交流学習						
お口の健康長寿教室						

3. 現在までに行った教育GPプログラムの中で、一番に残ったプログラムは何ですか？

4. 教育GPプログラムを通して何を学びましたか？(記載必須)

図2 教育GPプログラムアンケート

3. 結果および考察

学生へのアンケートを集計した結果、5つのプログラムすべてに対して、学生は良かった、またはおおむね良かったと答えており、特に2つの学外授業「高齢者交流学習」「お口の健康長寿教室」の評価が高かった(図3)。次に、各GPプログラムが、その後のどのような授業に活かされたかという質問(複数選択可)に対するアンケート集計結果を図4に示す。これらのアンケート結果から、歯科衛生士または、社会福祉士を目指す本学科の学生は、このプログラムを通じて対人援助職として必要なコミュニケーションの基本を学び、その後の専門授業においても相乗的な教育効果が得られている可能性が示唆された。

加えて、学生への聞き取り調査では、「学内授業は当たり前のことを再確認できる機会となった」、「実習に役立った」、「実習の自信になった」等の意見が多く、特に、「受身の授業は残らない、参加型授業は残る」とのコメントは、現場での経験を

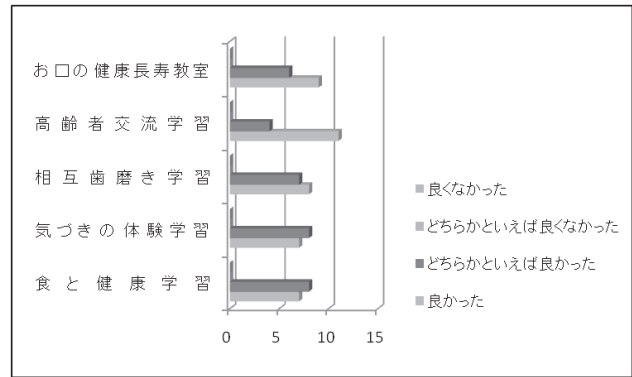


図3 学生によるプログラム内容評価

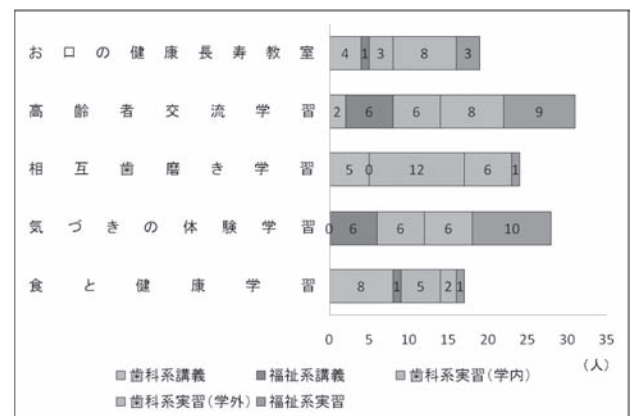


図4 各プログラムがその後活かされた授業内容

生かし学ぶこと、地域の教育力を活かす重要性を改めて認識する機会となった。

今後も、本プログラムを実施し、4年生となった学生を対象にその後の学習にどのように活かされたか追跡調査し、本プログラムについての教育効果を再検証していく必要がある。また、今後の課題として、「人間力の向上」を目指した初年時から卒業までの、切れ目なく継続発展させるためのカリキュラムを構築し、人間力という抽象的な概念を具体的な能力として持ち合わせた人材の育成を実現していきたいと考えている。